

# 平成 27 年度 島田市総合計画市民意識調査結果について

## 【調査目的】

毎年 1 回、市民意識を調査し、その経年変化等を分析することにより、市の取組を評価し、これを公表するとともに、総合計画の進行管理のための基礎資料とする。

## 【調査方法】

- (1) 調査対象 島田市在住の20歳以上の市民2,500人
- (2) 調査方法 郵送による配布・回収
- (3) 抽出方法 住民基本台帳より無作為抽出
- (4) 調査期間 平成27年10月23日～11月8日

## 【回収結果】

発送数：2,500人 有効回収数：977票 有効回収率：39.1%（白票を除く）

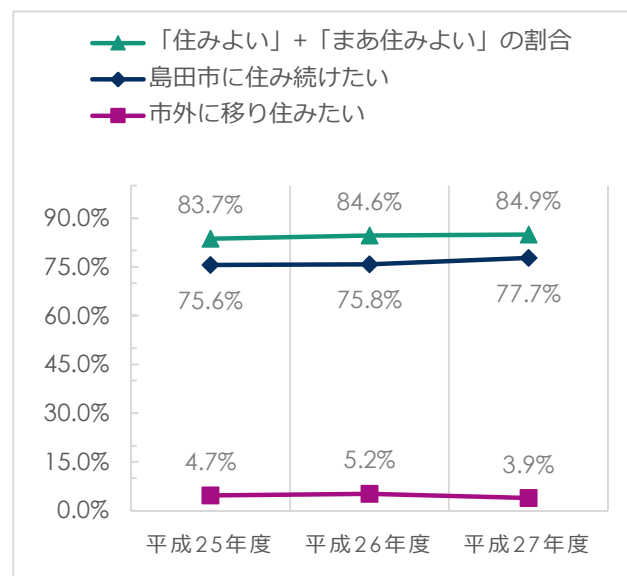
## ●島田市での暮らしについて (p.5～12, 61～65)

- ✓ 島田市の住みごころについて、8割以上の方が“住みよい”と回答しています

…「住みよい」24.4%、「まあ住みよい」60.5%を合わせると84.9%で、平成25年度（83.7%）、平成26年度（84.6%）からほぼ横ばいとなっています。

- ✓ 7割以上の人 が“これからも島田市に住み続けたい”と回答しています

…平成25年度（75.6%）、平成26年度（75.8%）、平成27年度（77.7%）と、微増傾向を示しています。また、「市外に移り住みたい」と回答した割合は、平成26年度（5.2%）から減少しています。



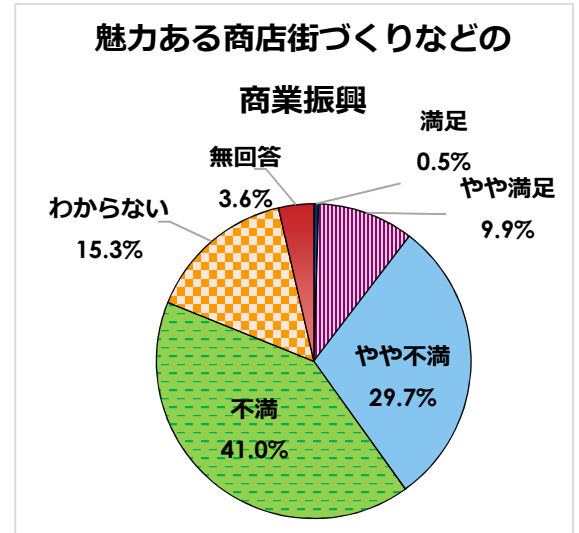
- ✓ 市民の幸福度は、平均6.7点/10点満点で、過去3年間でほぼ横ばいとなっています

…全国の平均点（6.4点）と比較すると、島田市の平均点の方が高くなっています。

## ●島田市の取組に対する「満足度」と「重要度」について (p.13~55)

- ✓ 満足度が高いのは「ごみ・リサイクル対策」、「健康の増進(健康診断や予防対策)」、「小・中学校教育の充実」の項目です
- ✓ 重要度が高いのは「医療の充実」、「地震・水害など災害に強いまちづくり」、「高齢者の医療・介護・福祉の充実」の項目です
- ✓ 重点的に取り組まなければならない課題は、「魅力ある商店街づくりなどの商業振興」、「雇用の確保・勤労者福祉の充実」、「まちの拠点としての駅周辺整備」です

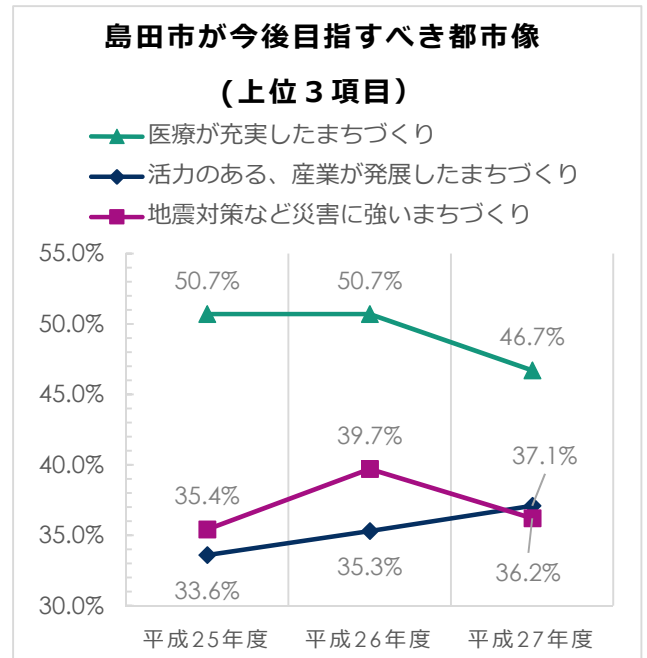
…上記3項目は、市民の感じる重要度が高いのに対し、満足度が低くなっています。特に、「魅力ある商店街づくりなどの商業振興」について、「不満」「やや不満」と回答した割合は、70.7%となっています。



## ●今後望まれている市政運営について (p.56, 57)

- ✓ 島田市の活性化を望む人の割合が過去3年間で増加傾向を示しています

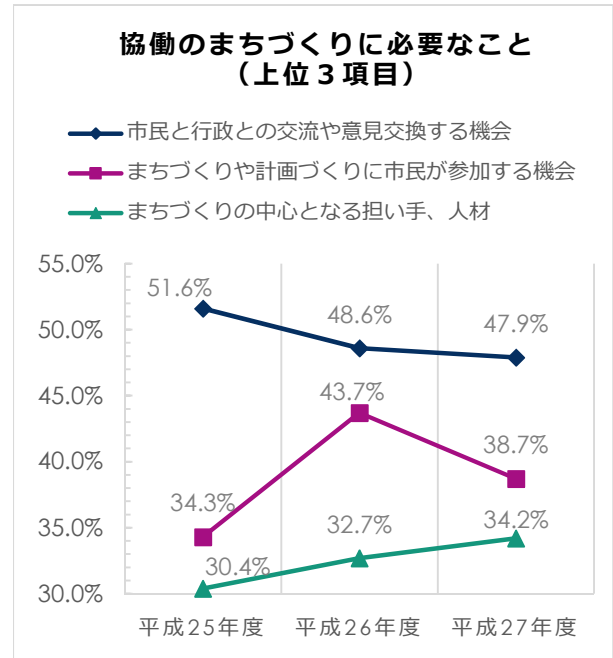
…島田市が今後目指すべき都市像について、「医療が充実したまちづくり」の割合が46.7%と最も高くなっていますが、平成26年度、平成25年度と比較すると減少しています。また、「地震対策など災害に強いまちづくり」と回答した割合は、平成26年度は第2位(39.7%)であったのに対し、平成27年度は第3位(36.2%)に減少しています。一方、「活力のある、産業が発展したまちづくり」と回答した割合は、37.1%で第2位に上昇し、平成25年度(33.6%)、平成26年度(35.3%)と増加傾向を示しています。



## ●市民協働の取組について (p.58~60)

- ✓ “市民と行政が、協力してまちづくりを進めていく”べきと考える人の割合は約7割で、過去3年間でほぼ横ばいとなっています

…また、市民と行政との協働のまちづくりに必要なものとして、「市民と行政との交流や意見交換する機会」という回答の割合が47.9%と最も高くなっていますが、平成25年度(51.6%)、平成26年度(48.6%)と比較すると減少傾向を示しています。また、「まちづくりや計画づくりに市民が参加する機会」という回答の割合も、平成26年度から減少しています。一方、「まちづくりの中心となる担い手、人材」という回答の割合は、増加傾向を示しています。



## ●浜岡原子力発電所のあり方について (p.67, 68)

- ✓ 浜岡原子力発電所の再稼働について、“再稼働してもよい”と考える人の割合は約4割  
“再稼働すべきでない”と考える人の割合は約5割です
- ✓ 今後の原子力発電所のあり方について、“全廃すべき”と考える人の割合は約7割、“活用すべき”と考える人の割合は約3割です

…“活用すべき”という回答の割合は、平成25年度(20.0%)、平成26年度(22.2%)、平成27年度(28.1%)と増加傾向を示しています。

## ●リニア中央新幹線の建設工事について (p.69)

- ✓ 中央新幹線建設工事に伴う大井川の流量減少予測について、“危機感を感じている”人の割合は約5割ですが、「わからない」という人の割合は増加傾向を示しています

…“危機感を感じている”という回答の割合は平成26年度(58.1%)、平成27年度(53.8%)とやや減少傾向を示しているのに対し、「わからない」という回答の割合が平成26年度(19.9%)、平成27年度(24.4%)と増加傾向を示しています。

## ●自由回答（p.70～）

- ✓ 寄せられた自由回答は約520件、うち最も多いのは、“都市・生活基盤について”約110件、次いで“産業振興について”約90件となっています

### 【平成27年度調査結果全体分析】

島田市の取組に対する「満足度」と「重要度」についてのポートフォリオ分析の結果、健康・福祉・医療分野や自然共生・歴史分野、教育・文化分野の取組に対する満足度は概ね増加しています。

一方で、特に産業振興分野の取組は、全て「重点取組エリア」または「取組強化エリア」に属しており、満足度は減少傾向を示しています。また、全体では、「重点取組エリア」に以下の11取組が属しており、これらに関連する事業を重点的に進めていく必要があります。

- 都市・生活基盤分野
  - ・生活に密着した道路の整備と維持管理
  - ・公共交通機関の充実
- 産業振興分野
  - ・特産品・地場産業の振興
  - ・雇用の確保・勤労者福祉の充実
  - ・魅力ある商店街作りなどの商業振興
- 健康・福祉・医療分野
  - ・高齢者の医療・介護・福祉の充実
  - ・障害者が生活しやすい環境づくり
  - ・医療の充実
  - ・安心できる消費生活の実現
- 教育・文化分野
  - ・高等教育（短大・大学等を含む）の充実
- 市民参加・協働分野
  - ・市の財政の健全運営